

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

たじま

日付 平成 20年 3月 31日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

母体の医療法人は医院・リハビリセンター・デイサービス・グループホームを倉敷児島の一画に、医療・介護を一体化して、自宅で生活する住民の健康・福祉を支えてきた。その中で家庭の延長として生活出来る場の拡大を必要とし、理事長が保有していた現在の土地に新しくグループホームが誕生した。地元住民にとっては、待ち焦がれたホームだったと思う。現実はこの地区からの利用者も多く、住み慣れた地域で第2の住処として暮らせる事こそ、地域密着型サービスと言えるだろう。しかし、情報提供票を最初見て、18人定員の中で、1年のうちに7人の退去者が居て驚いた。よく聞いてみると、他の施設へ移った人が一番多く、この人達は特養ホーム等の待機待ちの人で、ホームへの入所は腰掛だったとの事。これも世相の反映だろうと思う。一日も早く家族を預かって貰いたいと切羽詰っているのか、又、家族にとって出費する限界があるのかという事である。

このホームに入所出来、このホームでこれから自分の人生を楽しめるといふ人は幸せである。認知症になった高齢者を見ていると、自宅で家族に大事にされて暮らせる人が一番とすれば、二番目に幸せな人は、ケア及びサービスの質の向上を常に目指して、利用者の第二の人生をしっかり作って貰えるグループホームに入れる事だろうと思っている。(お金持ちで大金を出して豪華有料老人ホームに入れる人は別の観点であるが)この二つの所で暮らせる人は、家族に恵まれ、金銭的にも出費可能な人であるとすれば、認知症になった人の中で極く少人数の人達だろうと思う。

グループホームで生活すれば、9人という少人数の友達と共に生活出来、昼間の一番多い職員の時間帯であれば、1:3の職員と利用者の割合で、ケアサービスが受けられる。安心・満足・信頼の三拍子揃った中で、ゆったりとした気分で、生活が出来るのである。そこで、グループホームの生活情景としてあげている方針の一番多いのは「自分らしい生活」である。このホームでもそこに重点が置かれ、その成果として「利用者笑顔を出して暮らして貰う」事である。願っても中々出来ない条件であるが、この事を利用者の本当の生活目標や残りの人生目標とするならば、どのように具体的にケアし、サービス提供する中で実現してあげるかが、ホームにとっても重要な課題だろうと思う。グループホームを利用すれば、自分らしさとは何だろうか。この事を何か実現出来たら、家庭の延長どころか家庭や家族では先ず不可能に近い事であろうと思う。グループホームは家庭では出来ない第二の人生を送って貰える最高の居場所となるであろう。

特に改善の余地があると思われる点

グループホームでは利用者が24時間365日生活の場となっているので、介護計画と介護記録を見れば、利用者の生活が一目瞭然となっている事が望ましい。そこに利用者の改善や悪化の状況と支援した成果が読み取れると、ホームの役割もはっきりする。利用者の生活に密着した計画と記録方法をより具体化してもらいたいと希望する。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：理念について改善事項はない。別のグループホームの理念を引き継ぎ、法人全体としての共通した考えでもある。</p> <p>2、全体的に見て…：理念を要約すると「一人ひとりの自由と意志を尊重した個々のサービス提供、利用者同士で仲良く自分らしく生き生きとした生活、自宅と同じような環境で個々の残存能力を發揮できる暮らし、安心した生活が送れる健康管理」ということが挙げられている。その中で毎年重点計画・目標を掲げているが、「利用者に笑顔を出してもらう」ことを目指している。そのため、先ず職員同士が仲良く、はつらつとした行動が必要だろうし、利用者同士も仲良くしてもらわねばならない。利用者には近所の人がいて馴染みの関係も出来ているし、地域の人がよく声をかけてくれるそうだ。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：昨年完成したばかりなので、改善するところはない。建物も外回りの空間もピカピカという所である。これから利用者と職員の生活の臭いがついていかないと住み馴れた生活の場とは云えないだろう。</p> <p>2、全体的に見て…：山の傾斜の一劃に面し、ホームから児島の街並みの方を見ると遮る邪魔物はない、ホームから見ると山の借景から四季折々の風情が楽しめそうだ。まだ現在の利用者であれば、遠くを眺めて感情を出して喜怒哀楽を楽しめる人も多いと思う。玄関を入ると、前に中庭があり、上下階にあるユニットに行くことができる。リビングルームとオープンキッチンがあり、日本間風の寛ぎの部屋もあるので、利用者は寛ぎの場も選び生活を楽しめる。居室は一つひとつ個性があり、トイレ、洗面完備でプライバシーが保たれる。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ホームがスタートし、まだ1年であるので、業務など決めたことは遂行していく過程にあり、その結果はまだ先で評価できるので、今の所は改善することはない。すべての業務については、常に確認し、改良は積み重ねていき、ケアサービスの質の向上に努めなければならない。</p> <p>2、全体的に見て…：ホームに入所して友達もでき、9人で食事をしたり、規則正しい生活することによって、食欲が増したり、歩けるようになって今までの生活が改善することにより人間味が増してきた人も居る。一人暮らしや厄介者扱いされている人にとっては天国に来たようで、人間回復もしていくだろう。</p> <p>元氣な人、まだ人生を楽しめる人も多い。その人達に、自分らしい生活を送らせてあげるために何をしたら良いか、しっかりと話し合っ決めていってほしい。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…：設立して1年経過すると、ホームの内部の充実と共に家族や地域との交流について考えていかねばならないと考えている。改善ということでないが、日常の生活や運営の中で、少しずつ改良していく必要がある。</p> <p>2、全体的に見て…：ホームは毎日曜日をお出かけの日にして、買物、ドライブ、外食、行楽と積極的に外出支援をしている。利用者は外出することを楽しみにしており、外出先や車の中で利用者同士や職員と会話が弾む。冗談も飛び交う。利用者の言動が外出記録にしっかりと書かれており、その時々の様子が目に浮かぶ。利用者が目を輝かしていた利用者の喜びが想像できる。家に居た時よりホームに来てから外出して皆と楽しむことは何事にもまして掛け替えのないものになりそうだ。</p>		